



FUSO REPORT

第59期 報告書

2015年4月1日から2016年3月31日まで



扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368

株主の皆様へ

日頃より格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。
ここに2016年3月期(2015年4月1日～2016年3月31日)の
当社グループの事業概況等をご報告させていただきます。

代表取締役社長 赤澤 良太



2016年3月期の業績について

当連結会計年度における世界経済は、米国においては雇用、個人消費の回復が継続し、堅調に推移しましたが、中国およびアジア新興国における景気鈍化、原油価格の下落の世界的影響もありました。日本経済においても、世界経済の景気下振れ懸念、円高の進行により、停滞感が強まりました。

このような状況のもと、当社グループは最適な経営資源の投下、在庫・生産体制の抜本的見直しによる経営体質の更なる強化、原料の安定的な確保およびコスト競争力の強化を進めるとともに、“FUSOブランド”のグローバル市場での確立を進めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は352億9千8百万円(前連結会計年度比9.5%増、30億7千5百万円増)となりました。営業利益は72億7千9百万円(同34.1%増、18億5千3百万円増)、経常利益は72億9千9百万円(同32.1%増、17億7千4百万円増)、親会社株主に帰属する当期純利益は47億1千6百万円(同36.6%増、12億6千4百万円増)となりました。

なお、2015年12月に今後の設備投資計画に充当するため公募増資を実施し、東京証券取引所市場第一部へ市場変更を行いました。

今後の展望について

当社グループの事業展開において、以下を重点的テーマとして取り組んでいきます。

【ライフサイエンス事業】

三井化学株式会社から営業権を取得した有機酸事業の主力工場である鹿島工場の生産設備の承継を2017年末に完了する予定です。それに加え、2018年度中の稼働を目標に鹿島工場内にリンゴ酸生産設備建設を予定しています。この「果実酸コンビナート」構想を実現し、コスト競争力の抜本的な強化を図り、世界No.1のリンゴ酸メーカーを目指します。

また、日本・中国・タイ・米国に拠点を持つ企業として、各拠点間のネットワークを最大限に活用し、グローバル展開を推進します。特に、加工食品市場が拡大しているアジアに経営資源を集中し、各国の食品や食材に適した食品添加物製剤の開発・製造を進め、既存商品を含めた販売を拡大し、アジア地域での“FUSOブランド”の確立を目指します。既存顧客である日本向け食品加工メーカーに留まらず、東南アジア全域で新規顧客への販売強化にも注力します。

商品開発については、顧客のニーズに合致する食品添加物製剤(品質向上剤、呈味改善剤等)、GMP基準に準拠した医薬品原料および当社の既存製品の粉体二次加工品等の開発を強化します。また、政府の成長戦略等により、今後大きく変化が予想される農業、漁業、畜産業等の一次産業分野へ自社製品である果実酸を原料とした製剤類の新規開発に取り組んでいきます。

一方、為替要因による利益の減少を回避するために、タイムリーな



価格改定を進めると同時に、在庫数量の削減、不良在庫の整理、さらには不採算品目の統廃合によるコスト削減を進めていきます。賃金、物価上昇等により製造原価が上昇している中国の青島扶桑精製加工有限公司においても日本と同様にコスト削減を進めていきます。

今後も、果実酸総合メーカーとしてこれまで蓄積してきた販売チャネル、製造・開発ノウハウを最大限に活用し、さらなる売上および利益の拡大に尽力します。

[電子材料および機能性化学品事業]

継続的な成長が遂げられるよう、事業の中核となる半導体分野において、より一層の深耕を行うとともに、ケイ素化学を基軸として多方面への事業展開を推進します。

半導体分野では微細化、高集積化が益々進んでおり、それらのニーズに対応した製品開発を続けていきます。また、来るべきシングルナノ線幅加工に対応すべく当社の知識・技術を結集した新規設備建設計画に着手しました。

将来を見据えて新分野(半導体研磨以外)への製品開発につきましても東京研究所を中心に、営業、R&D部門とも連携して進めております。当社グループのコア技術である超高純度コロイダルシリカの合成技術を活かしたシリカナノパウダー関連で新製品の種を見出しており早期製品化を目指しています。数年内に半導体研磨分野以外での売上30億円以上を目指します。

2016年6月

TOPICS 東証一部へ市場変更

当社株式は2015年12月7日、東京証券取引所市場第一部に市場変更されました。これもひとえに、株主様の御支援の賜物と、改めて心より御礼申し上げます。

今般の市場変更に伴い、公募増資による資金調達を実施し、将来成長への必要な設備投資に充当してまいります。

ライフサイエンス事業においては、中国の連結子会社である青島扶桑精製加工有限公司の製造設備を増強することでクエン酸生産能力を向上させ、拡大するアジアでの需要に応えグローバル展開を更に推進してまいります。また、2014年10月に営業権を取得した有機酸事業の主力工場である鹿島工場について、その生産設備を承継するとともにリンゴ酸生産設備を鹿島工場に建設し、有機酸を軸にした「果実酸コンビナート」を構築することでコスト競争力の抜本的強化を図り、安定的で高品質な製品供給を目指してまいります。また、電子材料および機能性化学品事業の主力工場である京都事業所において、超高純度コロイダルシリカ生産設備の改造及び新設を行います。

東証一部上場企業として、より一層の社会的責任を自覚し、企業価値を高めることで、皆様のご期待にお応えする所存です。財務の健全性を維持しながら資本効率を高め、当社への需要および品質要求に対応し、今後も更なる業績の向上と業容の拡大を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事業概況

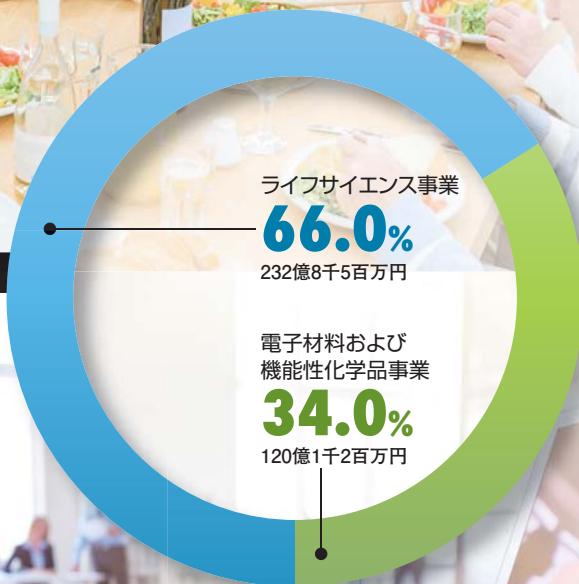


LIFE SCIENCE

売上高の比率(連結)



ELECTRONIC MATERIALS
&
FUNCTIONAL CHEMICALS



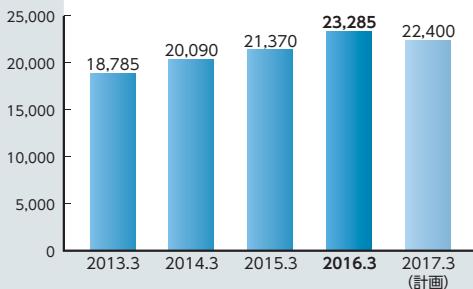
ライフサイエンス事業の業績は、外部顧客に対する売上高が232億8千5百万円(前連結会計年度比9.0%増、19億1千5百万円増)、営業利益は35億4千1百万円(同30.3%増、8億2千2百万円増)となりました。

2014年10月より事業承継した無水マレイン酸・フマル酸の販売寄与があったこと、また、主に飲料用途において、夏場の需要増と新製品への新規採用があり、果実酸全般の販売が増加しました。海外子会社の業績も堅調に推移したほか、主力製品である果実酸の原価低減も影響し、売上高・営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。

電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が120億1千2百万円(前連結会計年度比10.7%増、11億5千9百万円増)、営業利益は46億9千4百万円(同33.8%増、11億8千5百万円増)となりました。

半導体プロセスの微細化の進展に伴った当社製品「超高純度コロイダルシリカ」の需要が旺盛であり、またナノパウダー等の半導体研磨分野以外向け製品の販売も堅調に推移しました。当連結会計年度において、一部ユーザーの在庫調整の影響がありましたが、販売価格改定に努めた結果、売上高・営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。

LIFE SCIENCE ライフサイエンス事業 売上高 (単位:百万円)



ELECTRONIC MATERIALS & FUNCTIONAL CHEMICALS 電子材料および機能性化学品事業 売上高 (単位:百万円)



リンゴ酸やクエン酸等の果実酸を含む有機酸全般およびそれらを混合した製剤等の応用開発商品の製造・販売・開発を担っているのが「**ライフサイエンス事業**」です。リンゴ酸は国内唯一の製造会社として、国内はもとより世界市場でも高い販売シェアを占めています。また、クエン酸・グルコン酸においても、日本のトップメーカーとしての地位を確固たるものにしていきます。

2014年10月には三井化学株式会社から営業権を取得した無水マレイン酸、フマル酸等の有機酸も加わり、ライフサイエンス事業の基盤は強固なものとなっています。これらの商品は、食品加工から電子材料分野まで幅広い分野で使用されており、その市場はアジアを中心に拡大しています。中国・タイに製造・販売・開発拠点を持つ当社グループの強みを活かし、成長市場へ経営資源を集中することにより、今後も更なる発展・成長を続けていきます。

当社グループのもうひとつの柱である「**電子材料および機能性化学品事業**」の製品群の多くは、半導体業界に必要不可欠な製品として使用されています。1987年にシリコンウエハの精密研磨剤向けに製品化した純度99.9999%の「**超高純度コロイダルシリカ**」は、シリコンウエハの精密研磨剤原料としてトップシェアを誇っています。更にその技術はナノレベルの精度が要求されるCMP(化学的機械的平坦化)分野でも、メモリやCPUなどの多層化・高集積化に活かされています。最近では、粒子の微細性と均一性、粒子形状と表面修飾の自在性を活かし、電子情報機器向けのナノフィラー、樹脂添加剤など様々な用途にも採用されています。その需要はさらに拡大しており、これらに万全な体制で応えるため、生産拠点である「**京都第一工場**」、「**京都第二工場**」の拡充を進めています。2015年には一部設備を改造し新規製品の増産体制を整えました。また、2013年7月に開設した東京研究所の研究員を増強し半導体研磨分野以外への製品の開発を進めています。

一方、ライフサイエンス事業の技術をもとに製造される「**超高純度クエン酸溶液**」などの高純度有機酸は、シリコンウエハ洗浄剤等の半導体分野でもその用途を拡大しています。

連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当連結会計 年度末 (2016年3月31日現在)	前連結会計 年度末 (2015年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	34,221	23,330
現金及び預金	17,709	5,614
受取手形及び売掛金	9,424	9,300
商品及び製品	5,039	5,805
仕掛品	173	328
原材料及び貯蔵品	821	1,249
繰延税金資産	439	417
その他	614	615
固定資産	13,937	15,629
有形固定資産	12,084	13,325
建物及び構築物	5,934	6,436
機械装置及び運搬具	2,668	3,196
土地	3,067	3,074
建設仮勘定	2	34
その他	411	583
無形固定資産	292	521
投資その他の資産	1,560	1,783
投資有価証券	710	997
長期前払費用	20	17
繰延税金資産	608	467
その他	220	299
資産合計	48,158	38,959

科 目	当連結会計 年度末 (2016年3月31日現在)	前連結会計 年度末 (2015年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	5,780	6,167
支払手形及び買掛金	2,060	1,940
短期借入金	—	786
未払法人税等	1,380	1,287
その他	2,339	2,153
固定負債	2,407	2,212
退職給付に係る負債	1,554	1,355
繰延税金負債	377	373
その他	476	482
負債合計	8,188	8,379
純資産の部		
株主資本	38,194	27,805
資本金	4,334	1,180
資本剰余金	4,820	1,667
利益剰余金	29,043	24,961
自己株式	△3	△3
その他の包括利益累計額	1,770	2,769
非支配株主持分	5	5
純資産合計	39,970	30,580
負債純資産合計	48,158	38,959

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

※短期借入金には一年以内返済予定長期借入金が含まれています。



連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (2015年4月 1日から 2016年3月31日まで)	前連結会計年度 (2014年4月 1日から 2015年3月31日まで)
売上高	35,298	32,223
売上原価	21,331	20,571
売上総利益	13,967	11,651
販売費及び一般管理費	6,688	6,225
営業利益	7,279	5,426
営業外収益	107	149
営業外費用	86	50
経常利益	7,299	5,524
特別利益	104	1
特別損失	226	68
税金等調整前当期純利益	7,178	5,457
法人税等	2,461	2,004
当期純利益	4,717	3,453
非支配株主に帰属する当期純利益	1	1
親会社株主に帰属する当期純利益	4,716	3,452

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (2015年4月 1日から 2016年3月31日まで)	前連結会計年度 (2014年4月 1日から 2015年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,086	6,369
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,943	△2,542
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,845	△1,778
現金及び現金同等物に係る換算差額	△296	231
現金及び現金同等物の増減額	5,692	2,279
現金及び現金同等物の期首残高	5,521	3,242
現金及び現金同等物の期末残高	11,214	5,521

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1

(連結貸借対照表)

当連結会計年度末の総資産は、公募増資により現金及び預金が増加し、前連結会計年度末に比べ91億9千9百万円多い、481億5千8百万円となりました。また、負債については、主に短期借入金が減少し、前連結会計年度末に比べ1億9千万円少ない、81億8千8百万円となりました。

純資産については、前連結会計年度末に比べ93億9千万円増加し、399億7千万円となりました。これは主に、公募増資により資本金および資本剰余金が、親会社株主に帰属する当期純利益により利益剰余金が、それぞれ増加したためです。

Point 2

(連結損益計算書)

当連結会計年度において、2期連続で売上高・利益とも過去最高を達成しました。

輸出も順調に推移し、また海外子会社財務諸表の数値は、前連結会計年度に比べて円安に推移したため、円換算で増加しました。一部の輸入仕入品で価格の上昇がみられましたが、原油安による原価低減に加え、販売価格改定、各種コスト削減に努めた結果、前連結会計年度を大きく上回る利益を達成しました。

Point 3

(連結キャッシュ・フロー計算書)

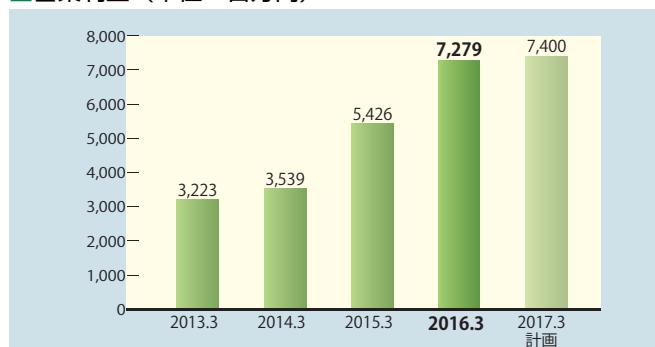
当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前当期純利益により取得した資金と公募増資により調達した資金を定期預金の運用、有形固定資産の取得、短期借入金および長期借入金の返済に充てた結果、前連結会計年度末に比べ56億9千2百万円増加し、112億1千4百万円となりました。

業績ハイライト(連結)

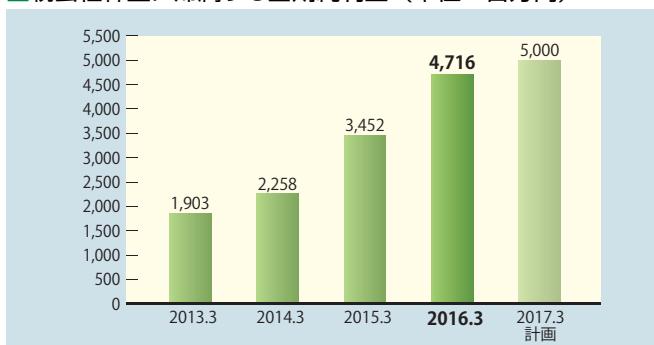
■売上高 (単位：百万円)



■営業利益 (単位：百万円)



■親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



■配当の状況 (単位：円)*



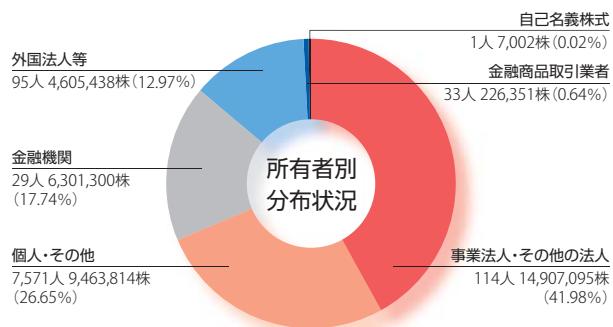
業績の推移

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期 (計画)
売上高(百万円)	27,355	29,327	32,223	35,298	34,800
営業利益(百万円)	3,223	3,539	5,426	7,279	7,400
経常利益(百万円)	3,231	3,586	5,524	7,299	7,400
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,903	2,258	3,452	4,716	5,000
償却前営業利益(百万円)	4,860	5,384	7,573	9,077	8,800
1株当たり当期純利益(円)*	60.42	71.68	109.57	143.76	140.82

■株式の状況 (2016年3月31日現在)

- 発行可能株式総数：95,000,000株
- 発行済株式の総数：35,511,000株
(自己株式が7,002株含まれています。)
- 株主数：7,843名

■株主の分布 (2016年3月31日現在)



大株主 (2016年3月31日現在)

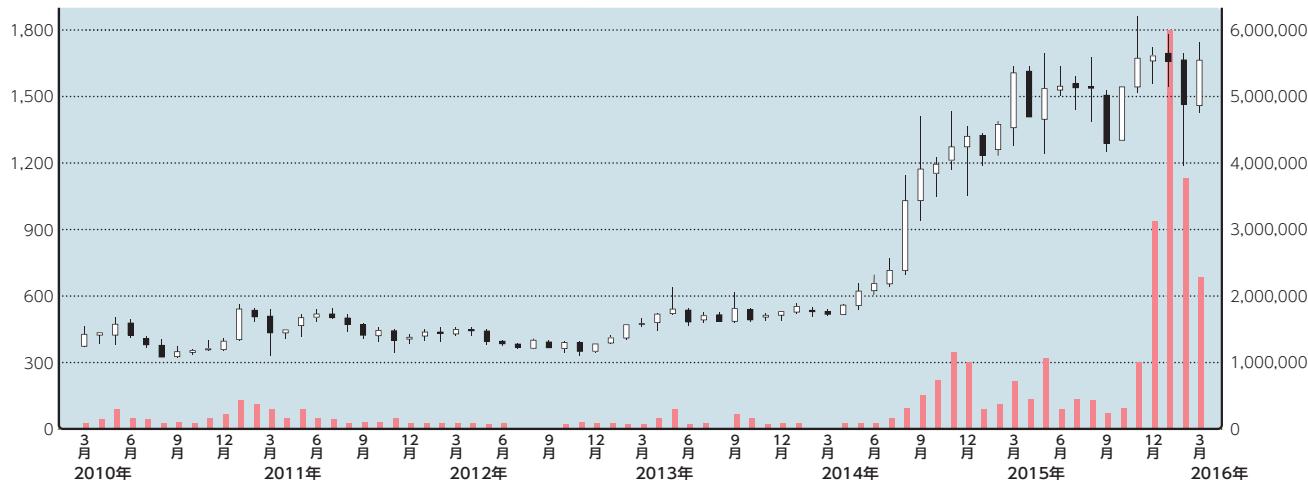
株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.76%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.37%
赤澤 庄三	3,085,965	8.69%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,500,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.87%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,331,000	3.75%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,283,300	3.61%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	1,217,500	3.43%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.34%
株式会社百十四銀行	800,500	2.25%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

■株価の推移*

(株価：円)

(売買高：株)



会社概要

会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号
(日生伏見町ビル新館5階)
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
京都事業所
京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
福岡営業所 福岡県柳川市大和町豊原107番地の3
東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
かながわサイエンスパークR&D棟 A1009
大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社 (国内) 株式会社扶桑コーポレーション
- 主要子会社 (海外) 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
扶桑化学(青島)有限公司(中国)
PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
FUSO (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

役員

(2016年3月31日現在)

■名誉会長および取締役

ファウンダー 名誉会長	赤澤庄三
代表取締役社長	赤澤良太
常務取締役 (管理本部長)	榎本修三
取締役 (電子材料事業部長)	政氏晴生
取締役 (ライフサイエンス事業部長)	谷村隆史
取締役	藤岡実佐子
取締役	多田智美
取締役	江黒早耶香

■監査役

常勤監査役	武川隆彦
常勤監査役	赤澤敬敏
監査役	木下善樹

■執行役員

上席執行役員 (PMP Fermentation Products, Inc. 副社長)	中永吉信
執行役員 (ライフサイエンス事業部 営業開発部 福岡営業所長 兼 株式会社扶桑コーポレーション 代表取締役社長)	中司哲浩
執行役員 (ライフサイエンス事業部 営業開発部長)	梶本源樹

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお問い合わせいたします。

- 公告の方法 電子公告とする(<http://www.fusokk.co.jp/>)
- 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部

【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。

株主の皆様のご支援にお応えするため、当期の期末普通配当金は前年度と比べ5円増配し1株につき15円、更に東証1部市場変更の記念配当10円を加え合計25円とさせていただきます。これにより既に実施済みの中間配当10円と合わせた年間配当金は、1株につき35円となります。次期の年間配当金につきましては、1株につき30円(うち、中間配当15円)を予定しています。

FUSO  扶桑化学工業株式会社

<http://www.fusokk.co.jp/>

VOC
FREE T&K

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの
インキを使用して印刷しました。